

## 「救援関西」発足 33 年の集い

### ～チェルノブイリとフクシマに想いをよせて～

12月15日開催の〈集い〉は、開会前から「アカリトバリ」ユニットがウエルカム演奏で参加者を迎えてくださるという趣向でした。この日お二人は都合で早めに帰られるとのことで、少しザワザワするが開会前から演奏をしていただけたらという

私たちの厚かましいお願いに、「アカリトバリ」さんが快く応えてくださったのです。

何度聞いてもジーンとする『相馬盆歌』『山の歌』『春を待つ海』、澄んだ歌声が拡がり会場が心地よく和みました。いつもありがとうございます！ ゲストの石井ひろみさんも、「『山の歌』を聞いて懐かしくて涙が出た。私たちが山を大切に守り、茸の生える場所は死ぬまで子どもにも教えない」と最初におっしゃって話を始められました。

さて、「集い」では石井さんのお話の前に、まずは事務局振津さんからの報告です。

放射能被害を軸に考えると、ここ数年間は重要な節目の年が続きます。2024年はマーシャル諸島での水爆実験「ビキニ事件」から70年、'25年はトリニティ・サイト(米ニューメキシコ州)での核実験(世界初の核実験)、広島・長崎原爆被爆から80年(これは「核時代」の幕開けから80年ということ)、そして'26年はチェルノブイリ原発事故から40年、東電福島第一原発事故から15年。核の軍事利用・「平和」利用のいかんを問わず、大きな核被害をもたらした出来事に思いを致すべき時です。「チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西」は、核被害をもたらした加害者の責任を問い、核被害者の補償と人権の確立を目指し、これ以上の核被害の拡大を許さないという決意で活動に取り組んでゆくことを表明しました。

また、今回の集いは、1991年の「救援関西」発足以来、代表として私たちの先頭に立って活動され、昨年3月に永眠された山科和子さんのおられない初めての「発足の会」です。長崎被爆者の山科さんは、ご自身が「こころ・からだ・くらし」の苦しみを抱えて生きてこられた経験を踏まえて、「核絶対否定」「核と人類は共存できない」という理念を貫き、「核被害を繰り返してはならない」



という強い気持ちで活動をされてきました。チェルノブイリの被害者との交流で、山科さんが示された姿勢や話された言葉が、チェルノブイリ・ヒバクシャを励まし、心を支えたことが紹介されました。常に山科さんが見てくださると思い、活動に取り組んでいきたいと思っています。

‘24年の「救援関西」の活動については、4月の「地震大国日本に原発はいらない！」集会や、福島の被災地と連帯して「医療費減免措置の見直し反対、国の責任による健康手帳の交付を求める」取組み、ロシアのウクライナ侵攻のために残念ながらベラルーシの方々との顔の見える交流が途絶えており、ネットでなんとか繋がっている現状など、それぞれジュラーヴリで報告していますので再読よろしくお祈いします。

‘25年・‘26年は節目の年として、「ヒロシマ・ナガサキ、そしてチェルノブイリ・フクシマを結んで、核被害を繰り返させない！」企画に取り組む、核被害者との連帯を強めていきます。

これから様々な企画を練って実施することになりますが、ご協力・ご支援をまだまだずっ〜と、よろしくお祈いします。ご意見もお寄せください！

次に、浪江町津島地区から避難を余儀なくされ、転々とした後今は福島市にお住まいの石井ひろみさんの事故当時の体験や現在係争中の裁判について話をお聞きしました。結婚して移り住んだ夫



石井家の暮らしを支えた釜も今は・・・

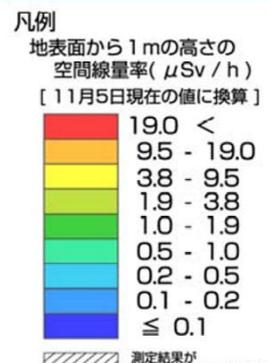
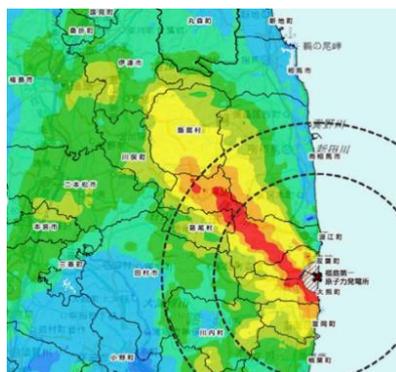
君の「ふるさと」津島でしたが、土地に根差して暮らす伝統的な生活に慣れ親しんだひろみさんにとっても、いつの間にか津島は「ふるさと」となっており、大切な日々の暮らしを紡ぎ出す土地が放射能に汚染され、もう帰ることが叶わなくなりました。落ち着いた口調でお話されますが、気持ちの切なさが伝わってきました。そして、「ふるさとを返せ」と国の責任を求めて裁判を闘っている。是非、支援をしてほしいとのアピールがありました。（詳しくは、インタビューも併せて、12ページをお読みください）

ベラルーシのチェルノブイリ事故による高汚染地からの「移住者の会」のジャンナさんから、メッセージが届きました(22ページ)。彼女は闘病中。「救援関西」のモットーである「顔の見える交流」が復活して、ベラルーシやロシアの方々との再会が可能になるよう願わずにはられません。発足以来 33 年、ここまで皆さんと共に歩んできました。これからもご一緒に、頑張っていきたい！！  
(と、皆さまを頼りにしている、田中あ)

《石井さんのお話・資料》



帰還困難区域に指定され、今も住民が住めない浪江町津島地区 = 朝日新聞社



出典:原子力規制庁  
 東京電力福島第一原子力発電所周辺の航空機モニタリング  
 (2011年11月時点)

## 【お話】 「ふるさとを返せ！津島原発訴訟」経緯と思い

石井ひろみさん（福島原発事故 津島被害者原告団）

皆様、こんにちは。ただいま紹介にあずかりました「ふるさとを返せ！津島原発訴訟」原告の石井ひろみと申します。よろしくお願いたします。

本日は「チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西」の発足 33 年の集いという事で、本当におめでとございます。また、お招きいただきましてありがとうございます。先ほどですね、アカリさんの素晴らしい歌声に、浪江町の津島での暮らしを思い出しました。キノコの歌詞が、話がありましたけども、津島でも昔からキノコ取りが盛んで、キノコが生える場所を「しろ」と言うんですね。その「しろ」は自分が死ぬまで息子にも教えない。そういう生活でした。懐かしくて、ついつい、涙が出てしまいましたけれど……。本当に素晴らしい歌声ありがとうございました。

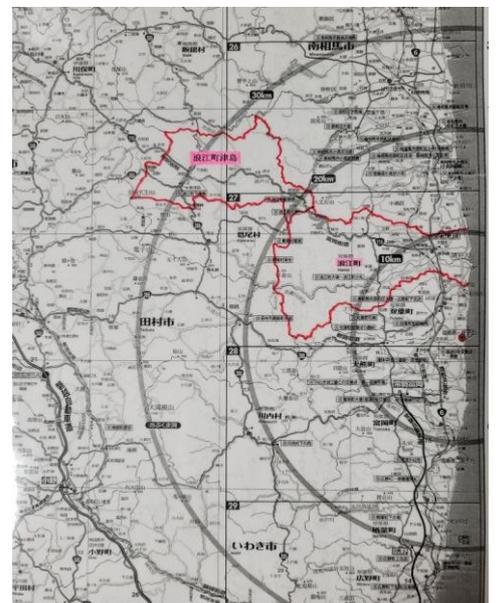
原発事故からすでに 13 年半を越えました。高線量だと知らされる事なく、多くの人々が避難してきた津島は、全域をドローン撮影した事や、映画やミュージカルなどになった事でも知られる事となり、多くの方々が視察に来られます。私達は、原発事故の実態を見て、国の原発政策についてあらためて考えていただきたいと、声がかかれば案内しています。「いくら話を聞いて、映像を見ても、実際に現地に来て、目の当たりにするのでは、これほど違うのか」との言葉を、来られた方は、必ず残して帰られます。今日は、そのような津島を皆様に見ていただきたいと、画像を多く用意いたしました。

私は、平成 12 年から 16 年まで、津島の公民館長を委嘱されておりました。その時にいわきの「かけはし愛染の会」という NPO が、小児甲状腺癌を発症しているベラルーシの子ども達の転地療養を引き受けている事を知り、小中高校生を連れて、夏季研修で一日交流をしました。こんな形で、こちらの「救援関西」の方々とご縁があったという事も嬉しく思います。

### 阿武隈山系の恩恵の下、濃密なコミュニティ、歴史・伝統・文化を継承する暮らし

津島は明治時代に、6 か所の小村が合併して津島村となりました。さらに昭和 31 年の合併で、浪江町津島地区となりました。ご覧のように津島は町全体の半分ほど 42% を占め、その広さは山手線内側の 1.5 倍ほどになります。事故当時は、8 行政区、約 450 世帯、1400 人ほどが暮らしていました。住民は阿武隈山系の恩恵の下、濃密なコミュニティの中で、歴史や伝統、文化を受け継ぎ、次の世代へと引き継ぐ、そんな暮らしを営んでいました。津島には、上下水道設備もありませんでした。水も自然の恵みです。

な暮らしを営んでいました。津島には、上下水道設備もありませんでした。水も自然の恵みです。



## 国・県・東電から何の知らせもない高線量下で、町民避難受け入れ、そして突然の避難指示

福島第一原子力発電所から、20～35 kmに位置する津島は、万一の事態が起きても影響は殆どないはずでした。国・県・協定を結んでいた東電からも何の知らせもない中、浪江町役場は、地震翌日の12日、津島への避難を決め、8千から1万人もの避難者が押し寄せてきました。町役場機能も津島へと移転し、公共施設は勿論、個人の住宅でも町民を受け入れ、住民は対応に奔走していました。津島診療所は、普段30人～40人ほどの患者を診ていました。しかし、12日～15日は10倍もの人々が殺到し、写真のよ

津島診療所 高線量とは知らされず避難者が200mもの行列で診察を待っていた



うに、200mほども外で診療待ちの行列を作っていました。その4日間の間に、関根医師がコンクリート建ての診療所の中で身に着けていたガラスバッジは800 $\mu$ Svを示していました。

外で遊んでいた子ども達、大人達はどれほどの被ばくをしていたのでしょうか。そんな津島の

関根医師の個人線量計数値  
3/1～3/31 ⇒ 0.8mSv/年  
4/1～4/30 ⇒ 0mSv/年

浪江町国民健康保険 津島診療所 関根 浩二		2011/03/01		2011/03/31			
測定日時	2011/04/26	測定時間	0.7	測定日時	2011/04/17	測定時間	0.0
測定場所	津島診療所	測定者	関根浩二	測定場所	津島診療所	測定者	関根浩二
測定機	個人線量計	測定機	個人線量計	測定機	個人線量計	測定機	個人線量計
測定値	0.8	測定値	0.0	測定値	0.0	測定値	0.0

状況を知りながら、国・県・東電は何の知らせもよこさなかったのです。15日早朝、2号機の爆発を受けて、町はさらに西を目指しての避難を決めました。町内に住んでいた友人は、12日早朝突然の避難指示にエプロン姿のまま、家の鍵と財布のみを持ってバスに乗ったと話していました。

### 「津島はかけがえのない故郷」

転勤族の父との生活で故郷への概念がなかった私が、津島に嫁いで、事故迄40年。避難所に慰問に来た自衛隊音楽隊との交流の場で、「津島はかけがえのない故郷」と痛感しました。「ふるさと」の演奏で合唱になった時に、次々と津島での暮らしの一場面一場面が浮かび、泣き出して、歌えなかったのです。私の中で、津島がこれほどの存在になっていたと、その時に思い知ったのです。死ぬまで暮らすはずの地から、死ぬまで続くはずだった周囲の人との関係から、コミュニティから、突然、何の準備も心構えもできないまま、慣れ親しんだ人達に別れを告げることもできずに、私達は故郷から引きはがされたのです。

学生時代に休暇の度に帝国ホテルの列車食堂部でアルバイトをしていた私は、同じくアルバイトをしていた夫と知り合い、津島へ嫁いできました。結婚前に訪ねた津島は、稲穂が風に揺れ、牧草が青々と茂り、ぎゅうぎゅう詰めの通勤電車に揺られる生活から解放されて、田舎暮らしもいいなあ、と、その時は思ったものでした。私の嫁ぎ先は、嫁いだ当時、世帯主の義伯父が役場の助役をしながら、競馬馬の繁殖もしていました。農家の生活を知らない私が、客として眺める風景と、嫁いで家業として見る景色は、当然大違いでした。稲粒がお米になるまで・・・、牧草を刈って、干し草にし、20kgぐらいにまとめて縛って、厩舎の屋根裏へフォークで刺して持ち上げ、保管する。そんな過程

が景色と共に見えるのですから。嫁としての立場と、珍しさから注目される事の多い田舎暮らしへの緊張と疲れで、逃げ出したいと思った事もありました。でも、嫁いで原発事故迄 40 年。津島は、私が「ふるさとを奪われた」と思う存

在になっていました。最初は気になった周囲の目も、見守ってくれる温かさだなど、まもなく気が付きました。そんな津島の自宅。原発事故がもたらした様子をご覧ください。

明治5年築 150年以上を経た母屋 建坪60坪



田植え踊りの練習をしたり、大勢の人寄せをしたり、雨の日に子ども達が運動会をした、幅いっぱいの神棚がある 24 畳の大広間がある母屋です

玄関土間の上がり框



事故後に、イノシシが畑を掘り返し、側溝を埋めてしまったので、床下浸水を繰り返した玄関土間です。土間でした。土でした。

糞の主は？



今年の夏に行った際、大広間には、動物が引き出して来たポアシートの上に大きな糞がありました。秋の終わりに行くとき崩れ、消化されない殻ごとの銀杏が見えました。

明治32年築土蔵 国道114線を挟み 母屋向かいに建つ

土蔵は震災前年に改修したばかりでした。



台所手前の竈屋 朝一番に火をおこし 釜いっぱいのお湯を沸かす



(右上) 釜屋。朝一番の私の仕事は大釜にお湯を沸かすことでした。洗顔、掃除、料理、味噌作りの煮豆、塩漬け保存用のフキを煮るため、田植えを手伝ってもらった家に配る柏餅を 200 個ほども作り、葬儀の際に手渡すおこわ作りも・・・、日常生活に欠かせない釜でした。結婚した当時はこの釜は、もう一回り大きい釜でした。慣れない私は、火が起こり、もう離れても消えないと安心するまで、竈の前を離れることができませんでした。じっと火を見つめていると、同じ立場の代々のお嫁さんたちも、この家を守るのと覚悟を、自分に言い聞かせていたのでは、と、思ったものでした。

母屋隣 杉林に囲まれた石井家氏神様



銅板で屋根をふいた氏神様、年末は大掃除をしてお神酒を、三が日には毎朝お雑煮を供えていました。

田畑の除染は5cm剥ぎ取り山砂で覆土



2011年東日本大震災年の暮れ  
国直轄モデル除染実施  
住宅周りは表土を5cm剥ぎ取り砕石覆土



2011年12月除染実施  
翌2012年3月雨水水路測定値



最後の三枚は、事故の年、年末に国直轄で行われたモデル除染後の様子です。表土を5cm剥ぎ取り、住宅の周りは砕石(バラス)を、田畑や花壇には山砂を5cm厚に敷き詰めてあります。その後、翌年のお彼岸3月に測った線量です。

### 「自分の代で、打ち切っているのか」18代目の夫の迷い、悩み

夫は、石井の18代目。「先祖代々受け継がれて今自分名義の財産は、決して自分のものではない。後の世代に引き継ぐべきものを、自分の代で、打ち切っているのか」と、迷い、悩み、・・・解体申請に踏み切れず、期限ぎりぎりになって申し込みました。申込期限を過ぎれば、自己負担での解体。その上、瓦礫は汚染物質です。後

の世代に負担はかけられないと、苦渋の選択です。

避難後に亡くなられた方は、高線量の墓地に埋葬できず、お寺の本堂に遺骨が安置されました。長引く避難で住職は福島市内に別院を設け、遺骨も移されました。現在も108柱以上あります。

## 人の営みが消えた津島、いまや動物が住人

人の営みは消えた津島は、いまや動物が住人となり、国道から入っていくと、立ち入りをする我々があたかも侵入者のようです。これは、カメラマンの方が定点カメラを備え付けて、そこへ

イノシシの掃宅「オラの寝床」  
すでにこの家のあるじか？



出入りする動物を写したもののなんです。一軒のお宅なんですけれども、これはカモシカです。イノシシですね。そして、あの、左端の方にアライグマが見えますでしょう。暖簾に描かれたトラではありません。(笑) アライグマが侵入者です。サルはこれ程の(30匹位)集団でうろうろしています。

住宅に出入りするカモシカ



## 津島は濃密なコミュニティ

先ほど、津島は濃密なコミュニティとお話しましたが、その一端を紹介する4枚の写真です。大広間で田植え踊りを踊ったとお話しましたが、こちらがその田植え踊りの様子です。男性ばかりで、早乙女の役も男性が踊ります。こちらは男性が踊るので、帯なんか汗でびしょりになるんですね。その他の衣装も1週間かけて、干して片付けるのは、庭元である石井の家の仕事でした。

これは、稲荷神社での例大祭の様子です。豚汁を作ってお餅をついて皆さんにふるまって、そして婦人会の人達が踊ったり、演技をしたりしていました。

これは、いきいきサークルといいまして、区長主催で、高齢者の一人暮らしの方とか、若い方がお勤めに出ている家庭の高齢者を呼んで、一緒に食事をする、そういう場面です。

これはですね、2年に1回行われていた敬老会の写真です。私も写ってますが、皆さんに演技を披露したり、食事を提供したり、一日楽しく過ごしていただきました。

友人である津島診療所の看護師は、通勤の行き帰りに、気になる患者さんがいれば寄っていました。休日にはお惣菜を鍋いっぱい作りバックに詰めて、一人暮らしや生活環境が心配な高齢者に配りながら、様子を見ていました。「私は、津島に育ててもらったから・・・」は、彼女のいつもの言い癖でした。

文化庁指定  
「記録作成等を講ずべき無形の民俗文化財」の田植え踊り



津島稲荷神社  
毎年10月第1日曜日に行われる例大祭



区長会開催いきいきサロン食事会  
皆で食べれば笑顔も満開



## 「ふるさとを返せ」津島の原状回復を求めて提訴

2014年、津島の町会議員2人が発起人となって、「津島地区原発事故の完全賠償を求める会」が発足しました。翌、2015年には、希望する会員で原告団を結成し、国と東電を被告に、「ふるさとを返せ」と津島の原状回復を求めて提訴しました。住民の約半数が原告となったのです。福島地裁郡山支部による現地進行協議を含め、33回の審議を経て、2021年結審、判決となりました。裁判所は原告の被害を丁寧に認め、国、東電には責任があると断罪しました。しかしながら、「飛散した放射性物質は原告等

の不動産や居住地に付着し、一体化して分離することが事実上不可能であるから、原告に妨害排除請求権はあるものの行使はできない」と、国・東電への除染請求は退けました。私達原告は、メイン主張の「原状回復」がかなわず、仙台高裁へ控訴することにしました。国・東電も無罪を主張して控訴し、2022年9月に1回目の審議が始まりました。今年（2024年）10月には裁判官交代による、高裁二回目の現地進行協議が行われ、今月（12月）11回目の審議を終えました。

## 国の責任を認めない最高裁判決を受け、「作為」の争点を増やした

2022年6月17日最高裁が、千葉・愛媛・群馬・生業（なりわい）の4訴訟団に対し、国の責任を認めない判決をしたことは、皆さんもご承知のとおりです。これを受け、津島訴訟は、規制権限不行使に加え、最高裁判所の判決が及ばない「作為」の争点を増やしました。

- ・6・17判決の違法性
- ・安全を確保せずに危険な原発の設置を許可した
- ・被害拡大阻止対策の不履行
- ・長時間の全電源喪失対策不要の指示、又、不要の作文を東電にさせたこと
- ・シビアアクシデント対策不要指示等

第10回目の期日では、東北大学長谷川公一名誉教授の意見書を提出しました。アメリカでは、2001年の9.11同時多発テロ後、テロに限らず、万が一にも原発の全電源を喪失することのないよう「B.5.b」という安全対策が全原発に義務づけられました。日本にも紹介され、2006年、2008年の2回、調査団が渡米し説明を受けました。が、日本は航空機事故に限定して受け止め、想定のないほど低い確率と黙認しました。この時、「B.5.b」を正しく受け止め、対策を講じて居れば、東日本大震災での原発事故は防げたのではないか、との内容です。

## 原発回帰政策に舵を切った岸田政権～国の責任を確定しなければ危険は増すばかり

6.17判決後、最高裁からお墨付きをもらった岸田政権は、待ってましたとばかりに、原発回

帰政策に舵を切りました。東電の責任は、最高裁が控訴を棄却したことから確定しました。し

**「ふるさとを返せ 津島原発訴訟」の特徴**

**「津島原発訴訟」の主張**

- ① 国の「規制権限」を行使しなかった  
→ **国の不作為**
- ② 安全を確保せず国賠として原発を推進した  
→ **国の作為**

国の責任を認めなかった「6.17最高裁判決」の拘束力が及ばない主張をしています

6.17最高裁判決 = **不作為**

津島原発訴訟 = **不作為** **作為**

**国が確保しなかった安全性**

- 長時間の全電源喪失を想定しない
- シビアアクシデント対策を放棄
- 安全対策より原発推進稼働を優先
- 過酷事故に伴う避難計画を準備しない 等

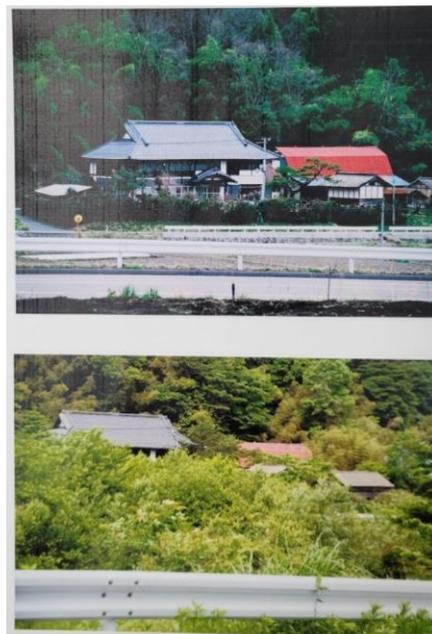
かし、放免された国の責任を、今、確定しなければ、老朽化原発の再稼働、稼働期間延長、完成の見込みもない再処理施設、新型原子炉等、

危険は増すばかりです。年頭に起きた能登半島地震。建設が阻止された珠洲原発が稼働していたらと、考えない国民はいないはずです。

### 「ふるさと津島の映像」～決して消すことのできない歴史の証拠

2019年、ふるさとが地図から消されてしまうのでは、との危機感から、有志で「ふるさと津島を映像で残す会」を立ち上げました。プロカメラマンの協力で、津島全戸をドローン撮影し、当時の全世帯に配布しました。手つかずのまま8年も過ぎ、森化した津島、屋根しか見えずジャングルに埋もれんばかりの自宅のありよう、それでも嬉しいと泣きながら感謝の電話をよこした住民もいました。道路からは見えず、電

線を辿って探し当てた家の、突然生活が切りとられたままの様子は、決して消すことのできない歴史の証拠です。



### 放射線量の調査

2km毎線量計を3週間設置 3.17~39.11mSv/y

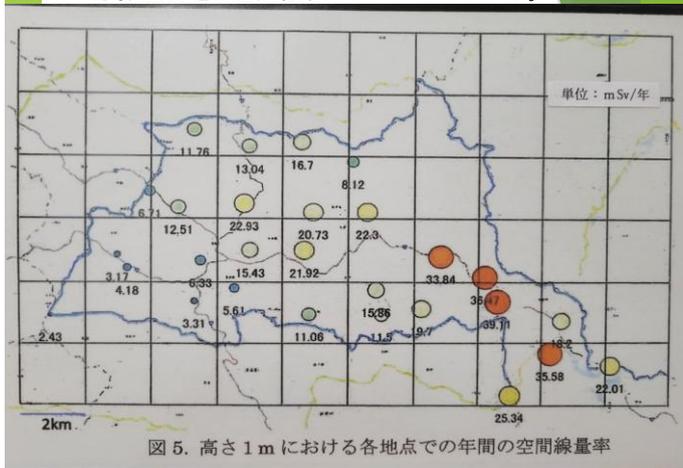


図5. 高さ1mにおける各地点での年間の空間線量率

2022年、ふるさとの、現在の汚染状況を知る為、また、高裁に証拠として提出する為、私達は線量調査をしました。独協医科大学の木村真三先生の指導の下、津島全体を2kmメッシュに区切り、各マス内の線量を測ったのです。低い地区で、3~5mSv/年、高い所では40mSv/年近くになりました。その後、木村先生は、1戸1戸の家屋回りも調査し、意見書も提出しました。今年、二本松市との契約期間終了にともない、津島への分室移転事業が進められています。

### 国が主導した原発稼働～6.17高裁判決は国の責任を免罪した不当判決

原発稼働は、国が主導し、レールを敷いて電気事業者を走らせたインフラ設備です。東日本壊滅と思われたほどの原発事故です。一企業の責任だけで終わらせるべきではありません。6.17判決は、原発を安全に稼働させ、監視監督する立場である国の責任を免罪した不当判決です。国の責任を明確に認め、汚染した土地の原状回復もできず、健康被害の回復も叶わぬ原

発は廃炉にすべきです。そして、安全対策を確保せずに原発を建てた国も、企業と一体となって共に、除染、廃炉計画事業の先頭に立つべきではないでしょうか。福島県は、原発事故から13年以上経ってもいまだに原子力緊急事態宣言発令中です。原発裁判は国のありようを、国の将来の姿を問う裁判でもあるはずです。

## 10 万年の保管が必要な高レベル放射性廃棄物最終処分(福島民友新聞：坪倉先生の放射線教室より)

高レベル放射性廃棄物最終処分について、お話したいと思います。ガラス固化体、これは、使用済み核燃料からウラン・プルトニウムを除去し、残りの高レベル放射性廃液をガラスと混ぜて固めたものです。直径 40 cm、高さ 130 cm、約 500 kg ほどあります。固化体は 20 cm 厚の金属で覆い、さらに 70 cm 厚の粘土で囲い、地下貯蔵予定です。現在、2,500 本、存在。国内すべ

ての使用済み核燃料の再処理で、27,000 本が見込まれています。最終処分前に 40 年の冷却が必要で、300m 以上の地下で東京ドーム 100～200 個分の場所に 4 万本以上の埋設計画があります。10 万年の保管が必要。

(坪倉先生：坪倉正治 血液内科専門 福島県立医科大学放射線健康管理学講座主任教授)

## 火山・活断層だらけの日本で、原発の稼働が可能なのか？！

4 つのプレートに囲まれ、火山・活断層だらけの日本で、原発の稼働が可能なんでしょうか？ 能登半島地震で万一の際の安全な避難ルートさえ確保できなかった事が判明しています。一方、大手電力会社が再生エネルギー業者に発電を抑制させる「出力制御」を行っています。2023 年 4 月～9 月、大手 8 社が 194 回も行い、1 回あたりの最大は原発 3 基分の 287 万 kw という事です。

皆様の中に、NHK の ETV 特集「理の人が見た原子力政策」をご覧になった方はおられますでしょうか。科学の歴史を研究されていた吉岡斉氏が、日本の原子力政策の審議委員として出席された会議の経過を記録していた数万点もの未公開資料が九州大学に保管されていた、という報道です。NHK はその資料をひも解き、取材を重ね明らかにしていました。高速炉・高速増殖炉もんじゅが大量のナトリウム漏れを起こし、今後も開発を続けていくか否かの審議が十分になされないまま、国会開催直前に突然審議停止になった事です。行政の中にも疑問視する人達があり、経産省の官僚から内通があった事、開発が継続される事になって、彼らは左遷

された事、などです。元審議員の一人は、「こんな事が公になれば大騒ぎになる。自分は茶番に参加させられていたのか」と、結論ありきの審議だった事に驚いていました。私たちが行政主催の説明会や意見交換会に参加した時に感じる事と同じです。結論は決まっている。でも、説明しましたよ、意見は聞きましたよ、述べる機会は与えましたよ、と、公表するためのパフォーマンス。国の審議会で専門家を相手にさえ、欺瞞をするのかと、失望しました。

2017 年か 2018 年だったと思いますが、原子力規制庁の広報官に質問する機会を得ました。田中元委員長の「原発は新基準に合格しても安全を保障するものではない」との発言をどう思いますか？と聞くと、彼の答えは「科学は絶対を保障するものではないと思っている」でした。

原発は万が一にも事故を起こしてはならない危険な構造物です。専門家からも人災と言われる福島第一原子力発電所の事故。東電株主代表訴訟では、原発事業経営陣としての安全意識・責任感が根本的に欠如している、と糾弾され、個人が支払う事ができない 13 兆円以上もの支払い命令が出されました。

## 6.17 不当判決を翻すため署名にご協力を

私たちは、6.17 不当判決を翻すために、個人署名 10 万筆を仙台高裁に提出しました。その際に「もっと積み上げます」と宣言してきまし

た。また、今回新たに団体署名も始めました。本日の資料と共に、皆様にこの封筒が配布されていると思います。団体署名は、二人以上の団

体など、たとえばカラオケの会とか、ゴルフ愛好会とか、そういう会でも大丈夫ですので、ぜひ、皆様のご協力をお願いいたします。

### 能登半島地震後、改めて思う～火山立国日本で原発を稼働させて良いのか

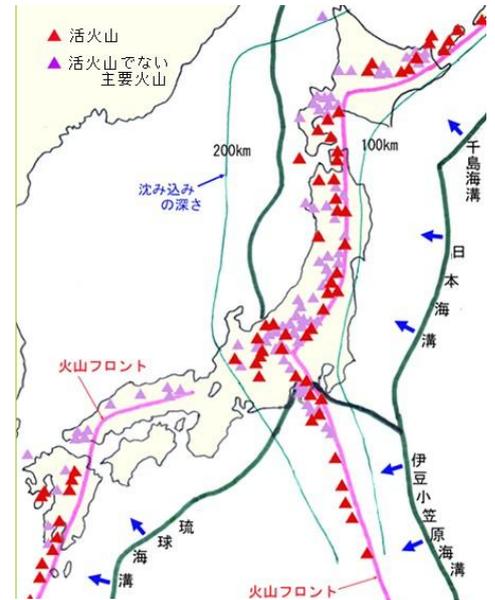
能登半島地震の後に、私は、柏崎刈羽原発、原発銀座と言われる一帯がすぐそばにあることに恐ろしい思いをしまして、ネット検索をしました。

一枚目が火山帯です。私達は2015年に原告団を結成し、その年の9月に郡山地方裁判所に提訴しましたが、結団式で決意表明をした私は、4つものプレートがせめぎあう火山立国の日本で、利益優先の稼働をした東電とその体質を作った国の責任を、弁護団の大きな力と共に追求したいと述べました。地図を見て、9年前に言った言葉を、あらためて思い出しました。日本は正に、火山帯の上に立つ国ですよね。

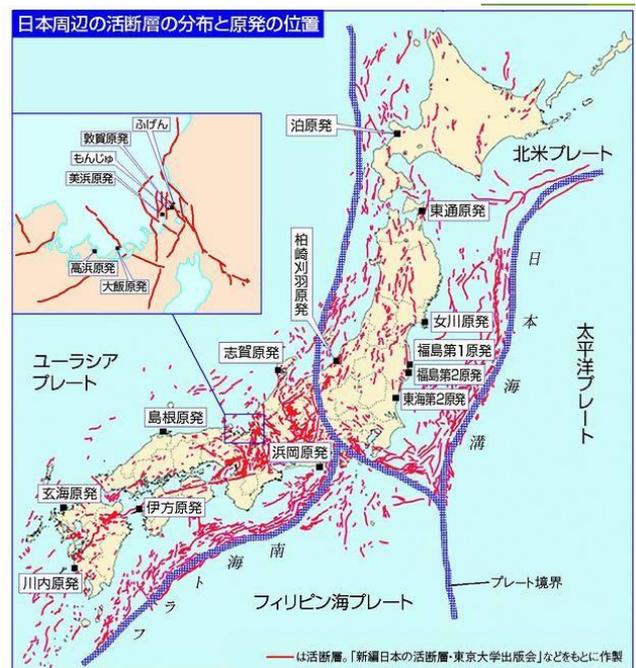
二枚目は、活断層と原発の位置図です。毛細血管のように張り巡らされた、赤い線の活断層地図。志賀原発の右手に、世界最大出力の柏崎刈羽原発。直線距離167.8km。左下には15基もの原発が並び、原発銀座と呼ばれる一帯。敦賀原発までは168.2kmです。今回の能登半島地震の震源域は当初190kmとネットで表示されましたが、後に150kmに改められていました。幅の表示はありませんでした。絡み合うように赤く表示される活断層、一旦地震がおきれば連動し、干渉しあうのは当然の事ではないでしょうか。

三枚目は、東日本大震災の震源域地図です。岩手県沖から茨城県沖まで500kmにわたり、幅200kmにも及んでいました。3月11日14時46分宮城県沖の本震マグニチュード9.0、15時8分岩手県沖マグニチュード7.4、15時15分茨城県沖マグニチュード7.7、15時25分震源域の太平洋側境界でマグニチュード7.5。時間の経過を見ると、連動していることがよく分かります。

次は、各原発から半径200kmの同心円を描いたものです。狭い日本で赤い色が重なり、これほど、こう影響を与え合うのかと思うような画像です。

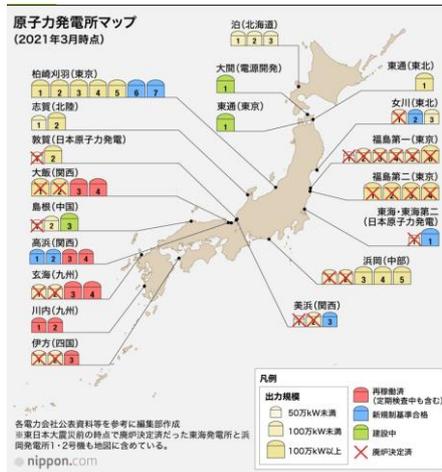


引用：防災科学技術研究所



引用：まにゅそく 2ch まとめニュース

最後に、原発の位置図です。これは、ちょっと古い画像なので、今は女川原発・島根原発・高浜原発も再稼働が予定されていますし。敦賀の2号機は原子力規制委員会が不合格を決定した事で廃炉にするという事が決まりました。福島は全部、10基全部が廃炉となっております。こういう地図を見て・・・、勿論皆さんの中にも検索された方もおられるでしょうし、ご存じの方もおられると思いますが、本当にこの状況で、日本で原発を稼働させて良いのか、疑問に思います。皆様も、多分、あの、こういう会に参加しておられるという事で、同じ意見だと思うんですね。共に頑張っていきましょう。



引用：国土交通省

2021年3月当時の原発地図。現在は高浜原発1・2号機、美浜原発3号機を加え、12機稼働中。女川原発2号機10月29日再稼働。島根原発2号機12月上旬予定。敦賀2号機は原子炉建屋真下の断層が動く可能性を否定できないと審査不合格となった事は、皆さんご存じの通りです。

### 放射線防護の最良の策は、原発を止めること、核をなくすこと！

放射線防護の最良の策は、原発を止める事。核をなくす事だと思います。

今後とも、皆様と一緒に頑張っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。(拍手)

## 【インタビュー】後の世代を守るために…今、国に責任を問う

### 娘さんやお孫さんへの心配

振津) 今日はお話になる内容をしっかり原稿にしたためていただき、しかも本当にいろいろ勉強をされて、裏付ける資料も含めて、皆さんにお伝えしたいという意気込みが伝わってきたと思っていますが、なかなかこういうところでご自身の個人的なことは言いにくかったかな、とちょっと思ったりもして。石井さんは、お聞きしたようにアルバイト先で巡り合ったというお連れ合いと、90歳を越えるお義母様と、避難先の福島市で暮らしていらっしゃるんですね。お孫さんとか娘さんのことを、私はちょっとお聞きしてはいるのですが、事故当時、13年前、お幾つだったか分かりませんが、今日、発



表していただいた中では言えなかったあたり、事故の後、どんな経緯で、一番、何を心配されたかとか、ちょっとお話ししていただけたらと思います。

石井) はい、事故当時福島市に娘がおりまして、女の子の孫がおりました。当時4歳で「お祖母ちゃんの家に行こうよ、お祖母ちゃん家に行こうよ。」と時々遊びに来ていたんですね。孫が来るので私は畑で野菜を無農薬で作っていました。私が、「ネギが欲しいな」と言うと、「私が採ってくる」と孫が畑に駆けていくんですね。そういうふうにして手伝うものですから、心配でやっぱり無農薬で作っていました。ちょうど事故の時、娘は二人目の子を身ごもっていました。3月の事故の後、6月に女の子を産んだんですけれども、医大でずっと診ていただいていたので、出産は医大でしました。ですが、私たちが住んでいた「みなし仮設」のアパートに退院の時にぐるぐる巻きにした子どもを連れてきて、顔を一目見せて、そのまま避難していきました。

4歳までは被ばくの影響を受けやすいって言われているんですね。実は娘が、孫がまた津島に行きたいって言う時に「津島はね、ばい菌があつて行けなくなったんだよ。」って話たんですね。その孫が会うたびに「お祖母ちゃん、もうばい菌無くなった？もう津島に行けるの？」

### 子どもだけでなく、地元にいると言えない事をいっぱい抱えているお母さんたちにも保養を

振津) 私たちは関西に避難してこられた方のお話を聞いたり、福島や周辺の地域のお母さん、お父さん達と、いわゆる保養ということで、夏休みのほんのちょっとの間なんですけど、引き受けたりしている中で、福島にいると思いが言えない。保養に来て、そこで今仰ったようなことも含めて、聞いてくれる人がいる。そういう事をよく聞かされたことがあります。

石井) 保養を引き受けていらっしゃる方の知り合いも沢山います。その中の一人が仰ったんですね。「引き受けたお子さんとお母さんがみえて、こんなことまで初めて会った私に話してい

っていうふうに聞いていたんですね。その孫ももう高校生になりまして、そういうことは聞かなくなりましたけども。事故の後、その4歳の孫は福島の私のアパートに来る時には、それこそ真夏に長袖をきっちり着て、帽子を顔を隠すほどに被って、マスクをして、汗だらけで来ていました。そういう思いを小さい子にさせなければいけない。そして親は、先ほど娘はお腹が大きかったと言いましたが、子どもが無事に生まれるまでどれほどの心配をしながら過ごしたか。お腹が大きいお母さんて、子どもが生まれるのを楽しみに待っているんですね。お腹にいるうちから子どもに話しかけているんです。それが本当に無事に生まれるか。生まれた時真っ先に、たいていお母さんて「身体に問題ありませんか」と聞くんですね。健康な状況でも。でもそれをどれ程の思いでお医者さんに確認したか。女性の方には分かっていたかと思えます。今、私たちは「ふるさとを返せ」と運動していますけれども、私の娘も息子も、後の世代もふるさとを失っているんですね。いろんな心配をしました。国も東電もそこまでのことを考えているのか、と、私はよく思ったものです。

いのかな。」そういうことまで話されると仰るんですね。「なんと返事をしたらいいのかな。こんな状況でいいのかな」って仰ったので、私はお答えしました。「保養は子どもだけのためじゃない。地元にいると言えない事、抱えている事がいっぱいあるお母さん達の話聞いてあげてください。それも保養なんです。お母さん達が自分の悩みを話せる事、心の内を外に出せる事、それもとっても大切な事なんです。お母さん方の気持ちが安定すると、子どもにもそれは伝わります。お母さん達が不安でいれば子どもも不安になります。是非、沢山話を聞いてくださいね。」とお伝えしました。

**振津)** もう 13 年も経ってますけど、今でもそうですね。この夏もゴーワクのキャンプに健康相談とか言いながら悩み聞き役みたいなことで一人一人 30 分、1 時間、お母さんのお話を聞いて、それからちょっと気持ちがほぐれてお互いに話ができるようになったとか、そういう

### 事故直後の状況

**振津)** 事故の直後に、本当に情報がない中で、皆さん津島に逃げて、それから数日後、また避難していく。その時の状況って、先ほどちょっと写真で、診療所のこととか見せていただきましたけど、もうちょっと詳しく、石井さんの周りで起こった、その時の状況をお聞きできたらと思います。

**石井)** 事故の後、15 日に町が避難をすると決めました。私は 12 日から炊き出しのお手伝いをしてたんですね。15 日には洗濯をしたい、下着を交換したいから洗濯をさせて欲しいとお話があって、洗濯機をじゃあ使ってくださいということで私は自宅に戻って待っていました。そうするとお昼頃、お隣の人が「町は避難することに決めたよ。私たちもすぐに避難するから、早く逃げなさい」って教えに来てくれたんですね。今年、99 歳になる夫の母と一緒に暮らしてはいますが、その母に「早く逃げよう。そういう連絡が来たから早く逃げようよ。」と言ったら、母は「私は避難しないから、みんなで逃げなさい。」と言うんですね。多分、確認はしていませんが足手まといになると思ったんだろうと思います。足、腰が不自由だったので。夫と私

### 自分の家だけ除染して帰って言われても…国は自然消滅を待つ気か？卑怯なやり方

**振津)** 私は津島は何回か、石井さんの所もお伺いしたし、牛の舌の佐藤畑の武藤さんの所も行ったとかしました。さっき写真にも出ていましたが、線量やっぱり高いですね。お年寄りでも、帰りたくても帰れないというか、そんな

事もありました。本当に原発事故で放射能が降ってきて、健康の問題だけでない生活の様々なところに影響を及ぼして、人生が変わったりしますよね。13 年経ってもふる里に帰れない。原発事故のない自然災害だけなら、そういう事は決してないわけですよね。

と、それから夫の妹も家に避難してきていたので三人で説得しました。一番は私が言ったことが避難するきっかけになったのかなと思うんですけど、「お母さん、娘が二人いるよ、お母さんの孫が二人いるでしょう。一人はまだ結婚していない。もう一人は今お腹が大きくてもうすぐ生まれる。私はその子たちの手助けをしてやらなきゃいけない。お母さんが残るって言えば、私も一緒に残らなければならないよ。だから、お願いだから一緒に逃げて頂戴。」と説得しました。高齢者の方は、そうだと思うんです。実際に避難された方たちも「津島に戻りたい。津島に戻りたい。自分が死ぬ場所は津島だ」と言って避難されてた方が沢山います。そして、お嫁さんの手を握りながら「津島に連れて行ってくれろ。」と言いながら亡くなった方もいます。本当に、今、避難解除されても戻れるのは高齢者だけなんですね。小さい子どもを連れてた親は戻りませんし。田舎のコミュニティというのは、それこそ赤ん坊からお年寄りまで各世代が揃って継続していくものですよね。今、帰れと言われても、本当にこのコミュニティの自然消滅を国は待つのかなって、私たちはそういう思いでいます。

状況ですよね。どんなふうになっていますか、帰れと言われて、実際のところ・・・。

**石井)** 先程、津島は山手線の内側の 1.5 倍ほどの面積というお話をしました。その面積の

1.6%だけが避難解除になりました。特定復興再生拠点と言うんです。私の家もその拠点内にあります。じゃあ帰れるか。帰れません。インフラは何もありません。先ほど、上下水道の設備もありませんというお話をしました。津島の人達は、沢水を引いてくるか井戸を掘るかでした。私の家は両方ありましたけども。帰る人には、帰ると手を挙げた人には井戸を掘りますよと言われましたけども、実際お店もない、何も無い所で、私、今年後期高齢者になりましたけども、あのう免許をそろそろ返納しなければいけない。そういう歳になったんですね。そうすると、ポンと津島に置かれてどうやってやっていくんですか。津島で作った物は食べれるか。まだ食べられません。食べる気になれません。そういう所へ帰れと言われても・・・本当に国は、高齢者ばかりが帰って自然消滅するのを待つ気なんだなって。今でもそう思っています。県

### 同じ被害者なのに、国の政策で「分断」される

**振津)** ただ単に避難解除しました、セレモニーをやって帰れますと言う。そこだけが新聞やマスコミに報道されると、「もう福島はそんなになったんだ。10年以上経ったんだもんね。」みたいな、福島の中でもそういう、帰還困難区域の人じゃないと分からないような思っているのがありますよね。情報も含めて。

**石井)** 私たちがこういう裁判を起こした時に、裁判所までデモをするんですね。その時に、「なんだ、金が欲しいのか。まだ金が欲しいのか。」実際そういう言葉がいくつか沢山ありました。ですから私たちはそう言われることに対してですけども、自分たちはもう、自分は津島の住民だって言えないんですね。私は今の住所に引っ越した時に、結局、聞かれば嘘を言いたくない。嘘を言いたくないけど、私は嘘を言いたくないから「浪江町の津島です。」と話しますが、自分からは絶対に話しません。それ

内に特定帰還居住区域と言いまして、帰還困難区域、いまだに線量が高い所も帰りたいと手を

挙げた人は除染しますよ。帰れるようにしますよ。

その家までの道

路、それから家の周り、家の敷地から20m以内は除染します。そう言われています。手を挙げた人も何人もいますけれども、じゃあ、自分の家は除染された。お隣はされない。周りの森はされない。それで帰ってと言われて帰れますか？私たちは本当に国のやり方の卑怯さというか、そういう思っています。



国道144線。通行車の安全確保の為、道路わきのみ伐採し再除染（2016年）

は原告団、みんなそうです。自分から人に話さないですね。事故の後、13年半経っても、いまだにそういう状況です。

**振津)** 今、石井さんは津島で被災をされて、中通りの県庁所在地の福島市の飯坂に住んでいらっしゃる。確かに中通りと浜通りで、あるいは避難を強いられている人たちとそれ以外の人々との温度差というか、同じ福島県民で同じように放射能を被って大変な思いした人たちなんだけど、国の政策の結果で分断されているという状況があって、被災者が言いたいことが言えないというようにさせられていますね。

**石井)** そうですね。何の公害裁判でもそうですけども、国が故意にやっているのかなっていうふうには思います。結局今回の原発事故って、津島だけじゃない、福島だけじゃない。日本全体が多かれ少なかれ、被害者だったと思うんで

すね。皆さん、そういう思いもあるし、福島市は線量が高くて福島市内から避難された方も、私の娘もそうですけど、大勢いらっしゃいます。同じ被害者でありながらあなたたちは補償されているよね。賠償金を貰ったよね。そういう

思いは当然あると思うんですね。で、私達自身の方も賠償金を貰っているから周りの人はそう思っているよねって自分で思ってしまうんですね。だからよけい言えないんです。そういう状況ですね。

### 子どもや孫を守るため「福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会」と連帯

**振津)** そういう中でどうやって、同じ被害者で共通した問題に取り組めるか。「福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会」が、避難者の医療費支援切り捨て反対だけでなく、「健康手帳」というすべての被害者、福島県だけでない周辺も含めて放射能が降ってきた所、人々が、国の政策でこういうことになったわけですから、国の責任で生涯に渡って健康を保障せよと、そういう要求をしているわけですが、どういふふうに皆で手を繋いで運動を盛り上げて行ったらいいのかなって、いつも「守る会」の皆さんと、悩みながらやっているんですけど、何かご意見がありますか。

**石井)** 浪江町は事故後に「健康手帳」を全町民に配布しました。私たちも最初はずっと丁寧に書いていたんですがしばらくするとホールボディカウンターを受けても、「異常なし」、「異常なし」っていつも言われるんです。で、だんだんそういう検査も受けなくなりましたけども。でも、私たちはもう先が見えている。事故の時だって、私は60歳を過ぎていましたから、まあ20年、30年後と思えば自分は寿命だなと。原告のみんなも自分の事より、子どもや孫を守

らなければいけない。そういう意味で振津先生がアドバイザーをなさっている「福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会」と連帯しましょうという事になりましたけど。やっぱりすべての原告団が、また被害者が連帯して国に訴えなければいけないと思っています。私たちはこういう被害に遭ってから全国の公害被害者の団体の方たちと交流ができました。そういうのを見ていても、国は結局被害を認めない。認めたくない。お金が絡んでくるといふ事も勿論あるんでしょうけども。原発裁判、私たちはまず国の責任を認めさせること。健康の担保もそれがなければ保障されないと思うんですね。先ほどお話しましたが、今後の原発政策についても結局国がきちんと責任を認めなければ改善はないと思っています。最高裁は、結局東電の責任は棄却したので東電の責任は問えるんですね。もう責任がある事になっているので、東電はあちこちの訴訟団と和解しています。でも、国は責任を認めていない。国の責任を最高裁も認めていない。私達は最高裁に国の責任を認めさせること。そうでなければ原発政策の改善はあり得ないと思っていますので。各訴訟団とも連携して闘っていこうと思います。

### 裁判で「規制権限不行使」だけでなく「作為」を争点に追加し、国の責任を問う

**振津)** そうですね。裁判の事についてですが、2022年に最高裁が出した判決では、「国に責任がない」とされました。ただ、その「責任」というのが、「規制権限不行使」という事で、津島の高裁では違う責任を問うということなん

ですね、そこらへんを説明していただけたらと思います。

**石井)** あのう、「規制権限不行使」はどの団体も訴訟団も闘っているの。その「規制権限不行使」は最高裁で「国は責任がない」と認めた

事になります。それはその後続いた判決も全て同じような判決が出ています。私達は同じ争点では最高裁に勝てない。同じ国に責任はないという判決が出るだろうという事で、新たな「作為」という争点を増やしました。その意味はですね、そもそも、何十年も前の話になりますが、原発を稼働するためには絶対の安全対策をしてから行うべきだ。それをしていなかった。危険という事を知らせずに、住民に知らせずに安全ですよと安全神話を振りまいて建設し、そして稼働させた。それと長時間の全電源喪失、それを考えなくてよい。その作文を東電にさせたんですね。その後、シビアアクシデント対策、それも考えなくてよい。そういう作為の点を私達は争点に増やして、この点で勝っていこう。先程もお話しましたが、**「B.5.b」**というアメリカが全原発に義務付けた安全対策なんですけども。東北大学名誉教授の長谷川孝一先生が私たちの裁判に意見書を出してくださいました。アメリカはそれを前提に全原発に義務付けて僅か半年で全ての原発がそれをしたんですね。それを、2006年、2008年、日本にも紹介されて調査団が行っているんです。2回、併せて13名が行ったという事です。その中の誰一人として、これは日本でも考えなくちゃいけない事だ、実施しなければいけない事だと思わなかったという事なんです。一昨日、東京で私たち訴訟団の集いを行いました。それは支援者を募る、支援を広げるという形での集いだっただけなんですけども、そこに長谷川先生も来てい

### 事故前は安全神話を鵜呑みにしていた

**振津)** 私達はそういう事に対して、ちゃんと勉強したり調べたりして、自分達でも確認していくし、みんなにも発信していくという作業をやっていかなければいけないなと思ってはいるんですけど。石井さん、どうなんですかね。震災、そして事故に遭われるまで、それまでに原発の

ただいて講演をしていただきました。「日本に侍は一人もいなかったのか。この事実を知って、俺は自決しなきゃいけないほどのことを見逃してきたのかと思う人間はいないのかな」と先生は仰っていました。結局、アメリカはそもそも9.11のテロで、たとえ何があっても全電源を喪失するわけにはいかないということで義務付けた**「B.5.b」**でありますけども、日本は紹介されながら、それを航空機事故だけに限定してしまったんですね。日本で航空機事故の起こる可能性は限りなく低いから、という口実で無視したんですね。私も長谷川先生の意見書が提出されて初めて**「B.5.b」**っていうのを知りましたが。日本はこれほどの事があっても無視をするのか。本当に失望しました。

**振津)** なんでも後手後手にまわるといえるか、悪いことが起きてから何とかしなきゃという感じですねよ。特に原発、原子力の事については、安全神話を振りまいて、事故が起こってから、慌てて何かをしようとする。それがどれだけ沢山の人の人生を狂わせてしまったかということとは全然頭がないということですよ。

**石井)** 私も何かで読んだんですけども、放射線教育をすれば危険だという事になる。そうすると、各地で行われている訴訟に影響してくるから、それは日本ではやらないということ、もう随分前ですけど何かで読んだ記憶があります。

事についてどんなふうに思っておられたのですか。

**石井)** 私自身も安全神話を信じていたというか、鵜呑みにしていました。先ほど公民館の館長時代にベラルーシの子どもたちと交流をしたというお話をしましたが、ベラルーシの子ども達は海を知らないのだから海に連れて行きたい

んだけど保険を掛けられないのよねというお話を、先ほどの引き受けられていた団体の方からお聞きして、で、あの、農協の方で津島の公民館の子ども達と一緒にいたら掛けられるよという事で、保険を掛けて、一日、海で交流しました。その時に、やっぱり、そもそも皆さん甲状腺ガンに罹っている子ども達、罹患している子ども達なので6人来る予定が、空港で出発前の検査でドクターストップがかかって一人は来れなくなったよ、という事だったんですね。で、その子達と一日交流して、帰りのバスの中



で私は子ども達に話をしたんですね。「みんなねえ、福島県にも原発が10機もあるのよ。万一そこで事故が起きたら私達も今日、交流した子ども達と同じような状況になるんだよ。」って話をしたんですね。そう

するとバスのガイドさんが「館長さん、私は原発の勉強をしているけど、日本の原発は安全だから子ども達にそんな事は言わないで。」と咎められたんです。東電は社外モニターを募集して、そういう安全教育をしていたんですね。でも私、事故があったと聞いた時に、そういう話を子どもにしながらまさかと思ったんです。ま

## 後の世代を守るため、今、国の責任を問う

振津) 私たちは長年、反原発運動をやってきて、また、「救援関西」も「繰り返すな！チェルノブイリ」がキャッチフレーズだったんです。ベラルーシの事故後のことを皆さんにお話ししながら、こういう事にならないように日本の原発を止めなきゃねって言っていたのに、フクシマが起こる前に日本の原発を止められなかったという事がすごいショックで、とても悔やまれました。

さか日本で事故が起きるのか。日本人はとても誠実で律儀で几帳面と言われてますよね。そして技術立国だと私も思っていましたから。その日本で本当に事故が起こったのかと思いました。学者の方によれば、人災だと言われる事故です。本当にこんな事が日本で起こっているのかと思いました。

ベラルーシの子ども達と接していて、一つ、すごく記憶に残った話があるんですね。子ども達が一か月半くらい日本で過ごすんですけども、汚染されていない地区で汚染されていない物を食べると子ども達は急に成長するんです。それで、引き受けている会の方たちは洋服とか下着とか新調するんですね。ある日、「このパンツはもう捨ててもいいよね。」と、着れなくなった、小さくなった下着を指して子ども達に言ったら「ダメ、それは捨てないで。それは誰々さんから借りてきたパンツだから捨てないで頂戴。」と言われたっていうんです。本当にその話を聞いて涙が出るほど私自身も悲しくなりました。そして、8才から11才の間にそうやって転地療養をすると1年半くらい寿命が延びるというお話をNPOの方からお伺いしたんですね。そういう状況を日本でも作り出したんだなって。先進国と言われる日本で本当に国のあり様を問われる、そういう状況だなんて思いました。

今日のお話で、石井さんがこの13年、辛いこと悲しいこと、矛盾とか、新しい発見とかされながら勉強される中で、最後の決論としては、やっぱりこんな原発は動かしてはならな



いという、ご自身の経験を通じて、そういうふうと言われるようになったのだと思いました。私達は核被害者のことを片仮名の「ヒバクシャ」と言うんですけど、私達の代表だった長崎の被爆者だった山科和子さんは原爆のヒバクシャでしたが、原爆だけでなく原発にも反対されていました。核被害者、ヒバクシャは、自身の体験を通じて、同じ思いに辿り着くんだなということをお話を聞いていて、しみじみ、私は思ったりしました。石井さんが、この13年間にそういうところに辿り着くまでの、葛藤みたいなことはあったんですか。

**石井)** そうですね。当初はとにかく避難生活を全うすること。私と母と二人で避難をしてたので。夫はいわき市で働いていたので、震災のあと一週間くらいは休みましたけど、その後ずっと、いわきの会社の方で勤めていました。私は母と二人で那須甲子少年自然の家、最終的にはそこへ行きまして2か月ほど過ごしました。そ

### 会場からの質問：裁判の原告以外の住民の思いは？

**振津)** 一つ質問が来ているんですけども。津島の方々に原告団が何人でしたかね。

**石井)** 一審の時には1400名の、事故前の人口のうち700名弱、約住民の半数で原告団を結成しました。現在、高齢者の方が亡くなられたりとか、あと、裁判をするためには印紙代が高いんですね。一審の時も勿論一人13万ほど印紙代を払いましたが、高裁へいくためにまたもかかる。最高裁へいくためにもかかる。やはり経済的な理由で断念された方もいます。現在650名で高裁で争っております。

### 「元気で明るい」津島の原告団

**振津)** 先日、裁判の傍聴に行かせていただいて、本当に皆さん、こんな言い方をしているかどうか、すごく元気というか、明るく会話が飛び交

の前は福島市に行ったり、それから私の実家は千葉にありますけど、実家に行ったりして過ごしたんですけど。何とか、母が当時86歳だったんですけど、やはり足腰が悪かったんですね。私と二人の時に母が亡くなる様な事があったら、夫や妹に申し訳が立たないと思いながら生活していました。今、少し余裕ができてきて生活がある程度、まあ何とか目ぼしが付いた時に、子ども達のことと孫達のこと、津島には帰れなくても当然。娘からは「私は子どもを連れて絶対津島には帰らないからね」って言われました。それも当然だと思いましたね。結局、それは私個人の話ですけど、皆、被害者と思っているし、心ある日本人の方、皆さんそう思っていると思うんです。後の世代を守らなくちゃいけない。自分達の健康は勿論のことですが、この先日本を背負っていく世代を自分達が守らなきゃいけない。そう思って今、国の責任を認めさせることを闘っています。

**振津)** そもそもその時の原告団は大体、住民の半数ということで、参加されなかった方々は、どんな思いだったのかという質問です。実際にその方々に聞いてみないと分からないですが。

**石井)** そうですね。事故後、バラバラに避難したので、参加されなかった方の話を聞く機会ってないんですけども、でも参加してもしなくても思いは同じ筈だと思ってるんです。参加できない人達の思いも背負ってというふうに原告団でよく話に出ます。

って冗談を言ったりとか、年齢的には私と同じかそれより上の人が多かったと思うんですけど

ど、いやあ、本当にすごい元気だなあと見ていたんです。

**石井)** 他の方にも言われるんです。津島の原告団はこんな深刻な裁判をしているのに、何であんなに賑やかで明るいのかって言われたことがあります。私達はバラバラに避難しているので、会える機会が殆どないんですね。その裁判の時、後は年に一回の総会の時。その時くらいだけなんです。だからどうしてもお互いに近況報告から、思いから、ワイワイと騒ぎながら、バスの中で賑やかだねって言われますけども、本当に楽しい話になるんですね。深刻な話も深刻でないように話せる仲間というか。結局、皆さん、思いは共通しているのでね、その部分は皆さん共有しているわけですよ。だから勿論、振津先生も前回の裁判に参加していただきましたけ

#### 「津島の団結力は凄い」津島全体が一つの家族みたいなので

**石井)** 田舎の事ですから行事が沢山あるんですね。その都度、住民で協力して役割分担をします。他の原告団、弁護団の方からも言われます。「津島の団結力は凄いね。」って。まあ、津島全体が一つの家族みたいな、そういう関係ですので、誰誰と言え、ああそうか、あその誰誰、うん、じゃあ 家族は誰と誰だねって、生活環境まで想像できるような地域なんですね。だから、本当に団結力があるというか、それぞれが役割を担ってすぐ動ける状況なんです。それとですね、一つ言えることは、結局、同じ地区に住んで同じ条件で闘っているわけですね。他の原告団は、自主避難の方、それから強制避難の方、いろんな状況の方が混ざっている訴訟団が多いんですね。津島は皆、津島

#### 会場からの質問：自然エネルギーへの「抑制」とは？

**振津)** もう一つの質問は、「自然エネルギーに（政府や電力会社が）抑制をかけている」とい

ど、本当にそういうふうを感じ取られたんだなって。なんか責められるような言い方をされる方もいるんです。なんだ津島は、って。裁判やっているんじゃないのか、って。随分賑やかだなあ、って。と、言われます。でも本当にそういう思いです。年に一回か二回しか会えない。裁判も高齢者の方がだんだん参加できなくなっています。それで、「賑やかなバスツアー」になりますね、福島から仙台の裁判所に着くまで。皆さん、楽しみに来られる方、多いです。

**振津)** でも、その雰囲気を見聞きしていて、皆さんの連係プレーと言うか、団結力は凄いなあと思って。それぞれが役割を担っておられて、ささっと動いて、皆さんにアピールをされたり、準備をしたりしていかれるのは、見習わなければと思っておりました。

で生活して、そして同じ状況で避難しているから一つはそれもあると思います。そういう意味での分断はなかった。でも今、先ほどお話したように、「帰還困難」が解除された区域（「特定復興再生拠点区域」「特定帰還居住区域」として除染を進め、住民の「帰還・居住が可能」とされた所）、そういう所は生活支援みたいな形でお金が出たりもするし、帰れる人、帰れない人、と、分断が始まるんじゃないか、という心配が私たち役員の中ではちょっとありますね。今のところは勿論大丈夫ですけど。本当に人の繋がり、本当に濃いコミュニティだったので、そういう分断がなく、皆さんから褒められる訴訟団であったと思います。

うお話がありましたが、それについてちょっと説明してほしいという質問が出ています。

石井) いわゆる原子力村と言われる組織ですね。これだけ原発事故が起きて、再生可能エネルギーをもっと増やしていかなければと言う話があるのに。私も最近まで知らなかったんですが、こんなふうに再生可能エネルギーの出力を抑

制しているのか。それは結局電事連を守るためですよね。それにつながる原子力村の組織を守るため、自分たちが要するに儲けるためですよね。だと私は思っています。

### 今後も交流を続けたい。署名にご協力を！

振津) ありがとうございます。そろそろ時間なので。

福島でも地域によって置かれている状況が全然違って、闘い方も共通した面と違った面とか、いろいろあって、いろんな所のいろんな状況にある方々の事を関西の皆さんにも知っていただけたらと思っています。石井さんのお家に何度か視察の際にお伺いし、お話をお聞きして、凄いな方だなと思って、是非皆さんにも聞いていただきたいと、今回、来ていただきました。今日お聞きした事を少し整理し、今日、来れなかった人とも共有したいと思っています。今

後も交流を続けてさせていただけたらと思います。今日はありがとうございました。

石井) ありがとうございます。私たちは、先程お話しましたように、原発事故の実態を見ていただいて知っていただきたい。そういう思いでお話をしております。是非、皆さまの中で、遠いんですけども、津島を見たいんだという方がおられましたら、いつでもご案内さし上げますので是非お越しください。本日はありがとうございました。

(拍手)

振津) 是非、先ほどの団体署名、二人でも「団体」ということですので、今日書いて渡せる人は、渡していただいて。後で、封筒で一つでも二つでも送っていただけたらと思います。

石井) 一つでも多くの団体署名をよろしく願いいたします。

「ふるさとを返せ 津島原発訴訟」とは

●津島地区の約半数の住民が提訴  
「津島原発訴訟」は、福島第一原発事故による高濃度の放射線汚染のため全域が「帰還困難区域」に指定された、福島県双葉郡浪江町津島地区の住民の半数近い約680名が国と東電を被告として提起しました。

●原状回復請求  
本訴訟の最大の目的は、ふるさと津島への帰還のために地区全域の除染等を国と東電の責任で行うことを求める原状回復請求です。

●訴訟の経緯  
2015年9月、福島地方裁判所山支部に提訴。2021年7月判決、国・東電の責任を認め断罪するも、原状回復請求は却下。2021年8月、仙台高裁に控訴し現在審理中。

団体署名へのご協力をお願い

●団体署名  
ふるさとを返せ 津島原発訴訟  
安全を確保せず国民として被害を被った後の責任を明らかにし、津島の原状回復を実現する公正な判決を求める団体署名

2022年6月17日最高裁判決は国の責任を否定し、その後に続く下級審では同様の判断が繰り返されています。しかし、そうした事実を無視した司法判断が続くことは、必ずや将来に禍根を残します。長時間の電源喪失や過熱事故への対策を要として、万が一にも事故を起こさないための安全対策を取らずに、漫然と安全神話を唱えてきた国に、事故に係る責任がないなどと責めるはずはありません。

ついでに、仙台高等裁判所裁判官に、この過酷な原発事故の被害に真摯に向き合い、自らの良心に依り独立して公正な判決を要請する団体署名にご賛同いただきますようお願い申し上げます。

「ふるさとを返せ 津島原発訴訟」原被告・弁護団、支える会

●個人署名  
ふるさとを返せ 津島原発訴訟  
原発事故の責任を負っているさとを原状回復するために公正な判決を求める署名  
10万筆を突破し、引き続き取り組み中です。

< 連絡先 >

「ふるさとを返せ 津島原発訴訟」弁護団事務局  
〒160-0022 新宿区新宿2-1-3 サニーシティ新宿南院 10F  
TEL: 03-3352-3663 FAX: 03-3352-9476

津島原発訴訟を支える会 事務局長 大塚定歩  
〒993-8041 福島県郡山市富田町上ノ台 20-58  
TEL: 080-9409-8951

ふるさとと津島の悲劇を再び繰り返さないために

福島の責任を認める  
公正な判決を!!

ふるさとを返せ 津島原発訴訟



## 【連帯のメッセージ】

### ベラルーシから「救援関西・33年の集いへのメッセージ」

チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西の「発足の会」に参加された皆さんに、ベラルーシから、心を込めてご挨拶申し上げます。

年月が過ぎるのは早いもので、もうすぐ1986年のチェルノブイリ事故の惨事から40年が経とうとしています。何百、何千人もの、世界中の様々な国々の方々が、チェルノブイリの被害者を支援してくださいました。そして、皆さんの団体は、ベラルーシが日本から遠いにも関わらず、真っ先に支援に駆けつけてくださった団体の一つでした。本当にありがとうございました！

歴史上のあらゆる核被害による人類への危険性は、今も軽減されてはいません。核の惨事、核兵器による被害は、何年も、何十年もの長い間続いています。

チェルノブイリ事故の被害者の一人として、私は自分自身の健康問題について少しお話ししたいと思います。私はガンを患って、抗がん剤治療を受けているところです。そして、診療所で治療を受けていると、同じように抗がん剤治療を受けている人々がたくさんいるのに驚かされます。ほとんどが60歳から80歳くらいの高齢者です。1986年のチェルノブイリ事故の頃には、私たちは30-40歳代で、30年後にはチェルノブイリ事故による被害者が増えてくるだろうという予測がされていました。でも、当時はまだ私たちは若かったので、30年先のことはまだまだ先のことのように思っていました。私たち、子どもをもつ親たちは、幼い子どもたちの健康の心配ばかりしていました。しかし、時は飛ぶように、瞬く間に過ぎ去っていきました。そして今、チェルノブイリ事故後の人生の全てをチェルノブイリ被害者のために捧げてきた私は、汚染地域に暮らしていたことが直接に関係するような病気を罹ってしまったのです。

今年の夏、私は薬草のハーブを摘みながら、泣いてしまいました。これまではいつも誰か他の人のために薬草を摘んでいたのに…今は、自分自身のために薬草を摘んでいるのです。

だからこそ、核被害者の声に耳を傾けることが重要なのです。世界中のどこの国であれ、誰もこのような、チェルノブイリ被害者のような体験をしないように。

私は反核運動を支持します。原発建設は止めなければなりません。核兵器の製造も止めなければなりません。すべての軍事紛争を止めなければなりません。そして人々が平和で安心して暮らせるようにしなければなりません。

ベラルーシからの私の声を、核兵器廃絶を求め、原子力エネルギーの利用に反対する、世界中の皆さんの声とあわせましょう！！

「人事を尽くして、天命を待つ」という諺が日本にあると聞きました。私たちも、それぞれの国で、できる限りのことをして、私たちの世界が安全で、楽しく、友好的になるようにしましょう。

皆さんと、皆さんご家族のご健康とご多幸、ご成功を願っています。

皆さんが、新年を迎えられることをお喜び申し上げます。来年が、最良の、平和な、善行の多い年になりますように。安全と、そして反核、反戦運動のご成功を。この私たちの小さな惑星、地球に生きる人類の幸せのために。

ベラルーシから感謝と愛を込めて。

チェルノブイリの移住者 ジャンナ・フィロメンコ



2024年12月8日

## 「老朽原発うごかすな！使用済み核燃料ふやすな！」関電包囲大集会



老朽原発動かすな！実行委員会主催の関電包囲大集会が関電前で開かれ、寒風の中、関電本店前に650人が集まりました。

私たちは、「救援関西」発足33周年のピラをまきながら、京都・奈良・兵庫の関西各地からの懐かしい皆さんと、「関電けしからん、嘘ばかりついて、乾式貯蔵で行き場のない使用済み核燃料置き場をこっそり増やして運転続けようとしている」とし

ゃべっていましたが、ふと見ると、九州や愛知、青森・新潟の旗もみえました。

主催者から、中島哲演さんは、若狭の原発銀座は今や「核のゴミ銀座」と呼ばれつつある。原発ゼロ法案を審議して国民的熟慮を呼び覚ましたい。と口火を切りました。

前米原市長の中尾道夫さんは、能登半島地震では避難計画は役に立たなかったことに触れ、原発がある限り、安心・安全はないと締めくくりました。

核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会事務局長の中道雅史さんは、「六ヶ所村の再処理工場は配管がボロボロで、例え完成しても溜っている核燃料の再処理は不可能である。核燃料サイクルは破綻している。これをあてにした関電の使用済み核燃料対策ロードマップも欺瞞だ」と訴えました。

続いて、社民党・新社会党・日本共産党・緑の党・れいわ新選組からの挨拶があり、訴訟団・市民団体・労働組合からのアピールが続きました。第7次エネルギー基本計画では「原発の軽減」が削除され、原発・核燃料サイクル推進を掲げられ、その危険性を多くの発言者が訴えていました。

原発は止めるしかない。今、舵を切らねばと、市民にアピールしつつ集会は梅田へのデモ行進に続きました。

(ゆみ)

## 原爆ドーム前に浮き出た

### 「NUCLEAR&HUMANITY CAN'T COEXIST」ってなに??

(ニュークリア アンド ヒューマニティ キヤント コエグジストの日本訳は、下記にあります)

久保良夫

1月22日、広島市の原爆ドーム前に行ってきました。ドームの奥のほうで、集いの準備がされていました。4時半から1時間かけて、英字の文をキャンドルで作成していました。

参加者は、100名でした。今年は、被爆80年、昨年日本被団協のノーベル平和賞受賞などで、盛り上がっているからか、マスコミは、30名ぐらい集まっていました。高校生の新聞部が取材をしていたのが、印象的でした。若い人を見ると、嬉しくもあり、頼もしくもあり・・・。

10月5日から広島で開催される世界核被害者フォーラムのプレ集会の意味合いが強い取り組みとなりました。核兵器禁止条約発効4周年を記念したキャンドルメッセージは、原爆ドーム前で、市民の手によって1500本に点火され、世界に向けての発信となりました。

世界で高まる核戦争の危機から人類を救うために、核兵器はもとより原発や劣化ウラン弾などすべての核利用の禁止と核被害者の救済が訴えられました。3月に締約国会議が開かれる核兵器禁止条約については、日本政府の早急な参加を求めるとともに、核被害者を「核兵器の使用と実験」によって影響を受けた者と狭く定義づけているため、多くの先住民を含む核被害者が切り捨てられていると、問題点も指摘されました。

集会では、HANWA 共同代表の森滝春子さんが趣旨説明をし、被団協から佐久間邦彦理事長、熊田哲治事務局長、ガザ救済を訴えている「広島パレスチナともしび連帯共同体」の田浪亜央江さん、「戦争させない・9条壊すな！ヒロシマ総がかり行動実行委員会」の石口俊一さんがアピールしました。

森滝さんは「広島原爆の原料ウランを採掘したコンゴのシンコロブエ鉱山で人権運動に取り組む弁護士が来日して参加することが決まった」と、報告されました。「核被害に苦しむ人々の声をヒロシマの地から発信し、核被害者救済とすべての核利用禁止を訴えよう」と力強く述べられました。



主催：核兵器廃絶をめざすヒロシマの会（HANWA）

集会趣旨（抜粋）：

\*今日の状況は、ウクライナ戦争は3年経てなお泥沼化し、イスラエル・ネタニヤフ政権はパレスチナ自治区・ガザへのジェノサイド攻撃に加え、レバノン、イラン、シリアなど中東に戦火を拡げ、領土拡大の野望をあらにしている。その間、毎日子どもや女性をはじめとする多くの無辜の民の命が奪われ傷つけられている。

\*ロシアもイスラエルも核を持ち、使用の威嚇をしており、今や人類を核戦争の危機にさらしている。中東の戦火拡大をはじめとする世界戦争の火種を消し止めなくてはならない。

\*私たちは、終わりを見せない世界の核被害者の苦しみと拡大に立ち向かうため、2025年10月に「核の無い未来を！世界核被害者フォーラム」をヒロシマの地で開催するにあたり、核権力と戦う世界の民衆に連帯を呼び掛ける。

**私たちはヒロシマから世界に繰り返し訴える！**

**中東、東欧の戦火拡大の危機を止めよう！ 民衆の命の灯を消させない！**

**核がある限りヒバクシャは増え続け、核戦争の危機をもたらす！**

**核時代に終焉を！**

**1500のキャンドルで発信しよう！**

**NUCLEAR&HUMANITY CAN'T COEXIST は、（核と人類は共存できない）**

《2024年 決算報告》

〈チェルノブリ支援〉 (子ども元気を含)	収入	カンパ・バザー収益	156,602
	繰越		1,563,923
	<b>現在高</b>		<b>1,720,525</b>
〈ベラルーシ保養支援〉	収入	カンパ	19,500
	繰越		284,496
	<b>現在高</b>		<b>303,996</b>
〈フクシマ支援〉	収入	カンパ・バザー収益	208,900
	支出	「集い」ゲスト招待・補填費(3回)	214,777
		ゴーワークカンパ	49,999
		サポーター(2団体)	15,152
		小計	279,928
	差引き		-71,028
	繰越		401,211
	<b>現在高</b>		<b>330,183</b>
〈運営会計〉	収入	会費(個人・団体)・カンパ	242,200
	支出	送料(J5回+切手代)	165,718
		紙・印刷代	54,850
		団体賛同・支援金	44,473
		事務費	8,246
		その他	2,500
		小計	275,787
	差引き		-33,587
繰越		214,897	
	<b>現在高</b>		<b>181,310</b>

皆様のご協力・ご支援、どうもありがとうございました。

昨年もベラルーシの友人との往来は残念ながら叶いませんでしたが、今年こそ再会・交流できることを願いその日の為に備えたいと思います。



\*\*\*\*\*

**カンパ・会費の納入ありがとうございました**

(2024.11.25~2025.2.17)

山下晴美 アカリトバリ 小牧正子 杉本泉 村田三郎 花岡光義 田伏和子 今中哲二  
岡田仁 久保きよ子 富田洋香 (順不同 敬称略)



## \* チェルノブイリ原発事故39年の集い

～被爆80年 戦争も核もいらない!～

日時：4月20日(日) 午後1時30分～4時30分

場所：大阪市立総合生涯学習センター 5F 第1研修室

主催：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西

## \* 3・9 さよなら原発関西アクション

原発やめて！核燃サイクル中止

～使用済み核燃料の行き場はない 老朽原発を今すぐ止めろ～

日時：3月9日(日) 午後2時～集会 3時40分～デモ

場所：中の島公園女性像前

主催：さよなら原発関西アクション実行委員会 (090-7107-1252 山口)

### = ジュラーグリ140号・目次 =

報告：「救援関西」発足33年の集い	p.1
お話：石井さん「ふるさとを返せ！津島原発訴訟」経緯と思い インタビュー	p.3 p.12
ベラルーシからの連帯のメッセージ	p.22
「老朽原発動かすな！使用済み核燃料ふやすな！」関電包囲大集会	p.23
原爆ドーム前に浮き出た「NUCLEAR & HUMANITY CAN'T COEXIST」ってなに??	p.23
会計報告	p.25
お知らせ、カンパ・会費納入のお願い	p.26



## 【会費納入・カンパのお願い】

会費の納入、カンパのご協力をよろしくお願いいたします。

昨年12月、「救援関西」は発足33年を迎えました。チェルノブイリ事故被害の大きさに比べると大海の一滴に過ぎないながら、ここまで歩いて来られたのも皆様に支えられてのことであり、深く感謝いたします。

長らく代表であった長崎被爆の山科和子さんが昨年3月に永眠されました。生涯をかけてご自分の凄惨な被爆・戦争体験を語られ、戦争にも軍事・平和利用の核にも反対されてきました。その遺志を継ぎ、これからも「顔の見える関係」を大切にして交流を深めながら、ヒバクシャの人権の確立、核なき世界を目指したいと思います。「救援関西」は皆様のご支援・ご協力のみによって成り立っています。代表は変わりますが(共同代表：振津、猪又)「救援関西」への変わらぬご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

ニュース発行：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西事務局

連絡先：〒591-8021 堺市北区新金岡町1-3-15-102 猪又方

Tel: 072-253-4644

e-mail: cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp

郵便振替：00910-2-32752

口座名：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西